

入 選

これからも変わらない

大切な場所

久保田 莉奈様

入 選

私の暮らし。私の人生。花・緑・庭がかかせない人生だ。

大学生の時、県外から帰ってきた私が見た実家の様子。花壇に何も植えられておらず、寂しさと同時に歓迎されていないように感じた。そこで初めて自発的にピオラを植えた。その瞬間は今でも鮮明に覚えている。家族は私に言った。「仕事から帰って華やかな花を見ると疲れがとれる」と。私はその言葉が嬉しく、植物の世界へのめり込んだ。

オージープランツ、アガベなど変わった植物と柔らかな花を融合させた自分なりの植栽を「から父と造りあげる。時には失敗し、なぜ育たないのか、と父と考えた。その時の私と父の表情はころころと変化する。そしていきついたのは、土の配合をすべて「から植物とその土壌に合ったものへと変えることであった。そのおかげで、植物もいきいきとし、父と毎日庭を見るのが日課となっていた。私と父の表情は笑顔のみになったのだ。今思うと、さらに父と良い関係が築けているのは植物のおかげかもしれない。

そして、私に転機が訪れる。昔から通い続け憧れであった花屋で働かせてもらえることになったのだ。お客様と植物の話をして、その植物に似合う鉢を一緒に考え、ピタッと決まった時のお客様の笑顔は忘れられない。私は、「この笑顔をもっと見たい」「この仕事が大好きだ」と実感した。

だが、突然やってくる持病の躁うつ病。うまく働けなくなり、辞めざるを得な

くなった。正直、今でも悔しく、受け入れられていない自分がある。毎日落ち込む私を励ましてくれたのは、家族や友人だけでない。庭の植物が私に「生懸命何かを話しかけてくれるのだ。それは励ましではないのは分かっている。「水がほしい。」ただそれだけでも嬉しかった。例え、発作が起きても庭に数分滞在し、部屋に戻ると落ち着き笑顔になる。こちらが手をかけると、その分答えてくれる植物。雨・風・雪にも負けず新芽や花芽を出してくれる植物。私もそのように強くなろう、と心の中で誓った。

庭は、今では私にとって、しんどくなった時に逃げられる場所。癒やされる場所。勇気をもたらえる場所。笑顔になれる場所。

る場所。きっと、今発作が起きていないのは庭や植物のおかげだと確信している。そして、これからもずっと変わることはない大切な場所となるだろう。



講評

これだけの植栽を土の配合から個人でされたとのこと、植物と庭への深い愛情を感じます。一から庭づくりをする難しさも忘れるほどに、園芸を楽しまれたのではないかと想像できます。夜の庭の見え方まで、工夫されたのではないのでしょうか。手入れ時の服も素敵ですね。ファッションなど園芸に係るものすべてを楽しまれているのだと思います。

庭づくりをきっかけに家族との絆が深まり、その緑を見て周りが癒やされ、また、植物の生命力が久保田さんの力になる。そして久保田さんの手入れで、緑がさらに生き生きとする。よい循環ができているように見えます。

緑を見るだけでも癒やしの効果があるといわれますが、ご自身の手で植え、育てられた庭には、それ以上の力があるのではないかと考えさせられました。これからも庭とともに、癒やしの時間を過ごしてもらいたいです。

Green
information

グリーン情報
編集部